

論文審査の要旨

報告番号	乙 第 3030 号	氏 名	曾 田 均
論文審査担当者	主査 佐々木 康綱 教授 副査 石田 文生 教授 副査 大池 信之 准教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>転移・再発結腸直腸癌に対するより優れた新規薬物療法の開発は、世界的にも喫緊の課題である。曾田は、KRAS および BRAF 変異陰性の転移・再発結腸直腸癌に対して、一次治療としてのフッ化ピリミジン製剤とプラチナ製剤の併用レジメン（FOLFOX 療法もしくはXELOX 療法）の併用療法に Cetuximab を追加した新たなレジメンを考案し、多施設共同試験を遂行した。62 例の評価可能症例に対して、FOLFOX 療法が、64.9%の奏効率を、XELOX 療法が 72.0%の奏効率を示した。また、無増悪生存期間は、FOLFOX 療法では 13.1 ヶ月、XELOX 療法では 13.4 ヶ月であった。副作用においては両レジメンともに、十分に認容可能なレジメンであることが示された。本研究では、探索的研究ながら、62 例と比較的多数の症例で、この併用療法の優れた有効を報告したこと、さらに第Ⅱ相試験ではあるも本併用療法が今後、標準治療の一つとなる可能性を示したことは、学術的にも価値がある新規な知見である。</p> <p>本研究は、わが国における多施設共同試験ではあるものの、曾田は、研究プロトコールの作成に中心的な役割を果たすとともに、18 例と全国でも最多の症例を登録したことは、本研究が、学位論文に相応しい仕事として評価される。</p> <p>論文題名： Multicenter Phase II study of FOLFOX or biweekly XELOX and Erbitux (cetuximab) as first-line therapy in patients with wild-type KRAS/BRAF metastatic colorectal cancer: The FLEET study (KRAS および BRAF 野生型、転移・再発結腸直腸癌に対する一次治療としての FOLFOX 療法もしくは、XELOX 療法に Cetuximab を併用した多施設共同第Ⅱ相試験 (FLEET 試験))</p> <p>掲載雑誌： BMC Cancer 2015, 15:695</p>			

(主査が記載、500 字以内)